

現代社会学部現代社会学科 教育課程編成・実施の方針

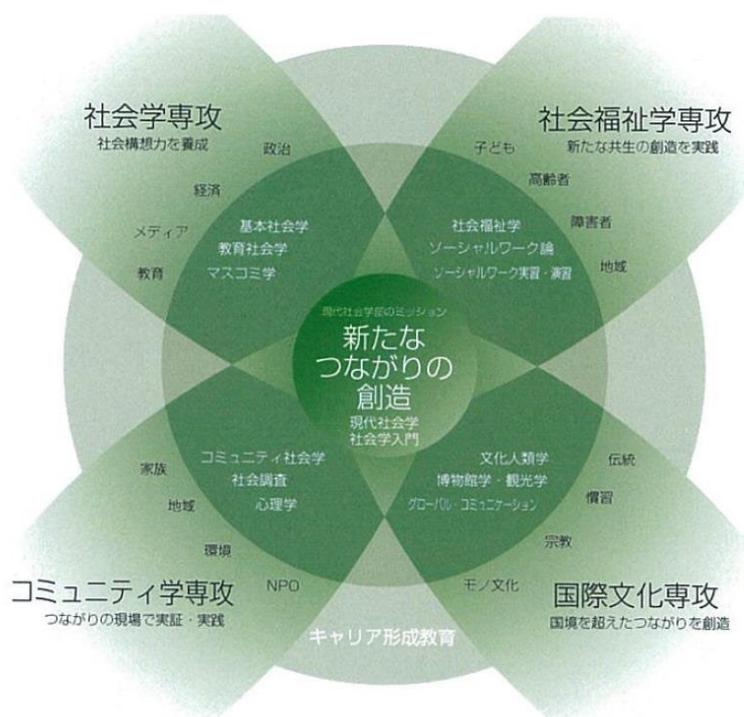
現代社会学部現代社会学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していきます。教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門教育科目である学部（専攻）固有科目から構成されます。全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨きます。それとあわせて初年次教育では、専門課程の基礎としての知識・技能の養成及びキャリア教育の導入を行います。専門課程では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するための科目編成をしています。成績評価については、各科目の特性に照らして適切と考えられる多面的な方法をシラバスに明示し、それを厳格に適用します。

<専門教育科目（学部固有科目）の全体構成とキーコンセプト>

現代社会学部の専門教育課程は、以下の概念図に示すとおり、社会学を現代社会への視座として学部教育の基礎に置き、その上に心理学、教育学、文化人類学、社会福祉学といった学を基盤にした専門性を高める専攻別カリキュラムを採用しています。それぞれの専攻のカリキュラムは基礎科目・基幹科目・展開科目に分かれており、学年が上がるにつれてより専門性の高い科目が配置されています。

科目編成における学部のキーコンセプトは「社会構想」です。これは理論的な追究と現実的、具体的な場における制度や関係の追究に分かれます。新しいつながりを基礎とする社会構想は、社会学専攻のカリキュラムによって理論的・総合的に追究されます。コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻、国際文化専攻は、それぞれの領域における現場を素材に新しいつながりの形成を追究します。その追究の視点と方法がカリキュラムの構成となっています。

この「社会構想」の追究とともにカリキュラムの背骨になっているもう一つの柱が、「キャリア構想」関連の科目群です。このキャリア構想科目群は1年次から4年次まで系統的に設けられています。現代社会の分析からこれからの「社会」を「構想」するなかで、各自の実践的なキャリア形成の方向を具体化することを狙いとしています。



なお、4専攻が扱うテーマと概要は以下のとおりです。

[社会学専攻]

社会学専攻では、現代社会で生じている諸問題の全体像を、政治、経済、教育、労働といった複数の専門分野を横断しながら多角的に解明できる「社会学的想像力」を修得します。

また、そうした現代の諸問題を解決するためには、新しい社会の仕組みをどのように構想・デザインしていけばよいかを追究するとともに、現代社会において「メディア」と「教育」が果たす役割を社会学の観点から深く考察することで、自ら構想した社会の仕組みのあり方を他者に向けて発信し、提案していくための方法についても学びます。

[コミュニティ学専攻]

コミュニティ学専攻では、集団の分析に焦点を置く「社会学」と個人の内面を分析する「心理学」をバランスよく学び、コミュニティをその関係構造と構成する人の内面を結びつけて理解するための視点と方法を展開します。その獲得のために、具体的な対象コミュニティの社会調査（量的・質的）を通して、現代のコミュニティが持つ課題を明らかにし、その

実践的解決を提起できる能力を身につけます。それは実社会で求められる情報の収集・分析力、企画力、プレゼンテーション力を獲得する方法です。

[社会福祉学専攻]

地域社会に出て人とかかわり、働き、家庭を持ち、子どもを生み、育てるというあたり前な生き方が、あたり前に誰もができるということを大切に、自分らしく生きられる社会を目指していく領域です。そのための社会的装置をどのように整備していけばよいのかということを考え、その実践方法を追究していきます。

[国際文化専攻]

価値が多様化する現代を生きぬくための世界観を広げる領域です。さまざまな価値観、世界観の交流を図りながら、その地域に積み重ねられた文化実践を国際的な視点や歴史的な観点から幅広く比較、検討できる視野と実践力を養うとともに、地球市民として活躍できる力を醸成していきます。

<専門教育課程の構成>

専門教育科目の卒業所要単位は80単位であり、以下のようにカリキュラムを編成します。

1. 学部教育（全専攻共通）の基礎を身につける科目として、「現代社会学」「社会学入門」「コミュニケーション・スキル」を設けます。「現代社会学」では、現代社会学部の現代社会への4専攻のアプローチ方法を提示します。また【新しいつながり】を探究する学部の学問的基礎として「社会学入門」を配置しました。「コミュニケーション・スキル」は、基礎的な情報処理とプレゼンテーションの方法を学ぶ必修の情報教育です。
2. 現代社会学部の学部教育の柱として、1年次から4年次までの系統的なキャリア教育を配置しました。1年次には「キャリアデザイン」を、2年次には「キャリア構想ケーススタディⅠ」を、3年次には「キャリア構想ケーススタディⅡ」を、4年次には「キャリア構想実践研究」を設けています。このキャリア教育は、学問的に今後の社会変動の方向を探究するとともに、その関連で自らのキャリア形成を実践的に考えることを目的としています。

4専攻の専門教育課程の編成は次のとおりです。

[社会学専攻]

- ①社会学専攻では、われわれの身近にある社会現象を、全体社会の動向と密接に関連させながら多角的に分析するための「社会学的想像力」を重視します。1年次には、そうした社会学的想像力の基礎を培うため、「社会調査入門」「教育問題と学校の社会学」「メディア社会学」を選択必修の基礎科目として配置しています。
- ②2年次には、1年次に獲得した「社会学的想像力」の基礎を駆使しながら、実際にメディアや教育、労働、福祉等の各領域ではどのような問題が生じており、そうした問題を解決するためには、どのような社会の仕組みを新たに構想・デザインし、それについて他者に向けていかに発信していくべきかについて多角的に分析できることを目指します。そのための基幹科目として、「マスコミの社会学」、「労働とグローバル化の社会学」、「福祉社会学Ⅰ」、「社会の哲学」、「臨床の社会学」、「ジェンダーの社会学」、「地域社会学」を配置し、いずれも選択必修としています。同時に、基礎科目及び基幹科目で身につけた知識や技能を、さらに発展させながらその定着を図るため、「市民の政治学」、「青少年問題の社会学」を選択必修の展開科目として配置しています。2年次の秋セメスターからは「演習Ⅰ」を受講することで、それまでに修得した社会学的想像力の基礎を実践的に応用するためのトレーニングをしながら、自らの研究対象を見つけていきます。
- ③3年次には、「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」を受講します。これら演習の目的は、2年次までに自らが興味をもった研究分野について、新しい社会の仕組みやつながりをデザインし、外部社会に向けて具体的に提案、発信していくための【社会構想力】を育成することにあります。
- 3年次の基幹科目としては「社会学理論」と「社会階層と教育の社会学」が選択必修、展開科目としては「生きることの社会学」、「地域メディアの社会学」、「コミュニケーションと自己の社会学」、「福祉社会学Ⅱ」がいずれも選択必修です。
- ④4年次には、「演習Ⅳ」と「演習Ⅴ」を通して、3年次までに各自が構想・デザインしてきた新しい社会の仕組みやつながり、キャリアに関する成果を、ゼミ論あるいはそれをより深く追究した卒業論文の形にまとめ上げ、完成させることを目指します。

[コミュニティ学専攻]

- ①コミュニティ学専攻は、人間関係・社会関係が生み出す【現場】を重視します。そのための基礎科目として、【現場】を理解するための「社会調査入門」と「コミュニティ心理学」を必修科目として配置しています。さらにその基礎学力を補強するために選択必修として「ボランティア論」と「社会調査論」を設けています。
- ②2年次には、【現場】を知る方法を具体的な形で修得するために「コミュニティ学演習」を必修科目として設け、さまざまなコミュニティの基本的知識を修得するための基幹科目として「社会関係論」「地域社会学」「家族社会学」「労働とグローバル化の社会学」「人間関係の心理学」を配置するとともに社会調査の専門知識を修得するための「社会統計学」

「データ分析論」を設けています。2年次の秋 semester からは「コミュニティ学演習」で修得した【現場】理解の基礎力を、さらに「演習Ⅰ」として高めます。

③3年次には、「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」でより具体的な【現場】の理解力と実践力を修得します。同時に、実際に【現場】に向き合う科目として「社会調査実習」「インターンシップ」を設けています。また、2・3年次に、個別のコミュニティ分析の視点を社会全体の構造や変動と結びつけることができるように、「社会の哲学」「社会階層と教育の社会学」「社会保障論」等を選択科目として配置しています。

④4年には、「演習Ⅳ」「演習Ⅴ」でそれぞれが向き合ってきた【現場】を社会構想という課題と絡めながらゼミ論、またそれを深く追究した「卒業論文」へとまとめあげます。

[社会福祉学専攻]

①社会福祉学専攻は、人生を豊かにし、持続可能な社会を構想するために、社会学や心理学、文化人類学等の手法を活用し、福祉課題を分析し、問題解決力を身につけます。フィールドワークを重視し、チームワーク力、行動力を研鑽します。

②1年次には、社会福祉の思想、哲学、価値が、一人ひとりの【いのちと暮らし】を大切に、経済活動や法制度、市民活動等の社会の骨格になっていることを理解するため、「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅰ」等を配置しました。さらに「ソーシャルワーク演習Ⅰ」により社会福祉学の基礎的な知識、実践方法を身につけます。

③2年次には、現代社会においてどのような福祉課題があるのか、私たちがどのような地域社会に暮らしているのか、他人を理解し、現状を把握し、課題を見出すため、「ソーシャルワーク論Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅲ」等を配置し、関連知識を修得します。児童、高齢者、障害者等の領域に関する知識を修得し、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」等の実習・演習による体験的な学びを通して、社会福祉学の基礎的な知識、実践方法を身につけます。

④3・4年次には、1・2年次の学びを様々な福祉現場で実体験し、理論と実践の融合を図るとともに、「地域福祉論」「生活保護と生活支援」「医療福祉論」「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」等を通して、専門職として知識と技術を修得します。

[国際文化専攻]

①1年次には、国際文化専攻の基盤である文化人類学の基礎と基本的な手法を修得します。理論的な面での文化人類学の基礎を身につけるために、「文化人類学入門」「文化人類学方法論」「博物館概論」を配置します。

②2年次には、グローバルな視点を獲得し、さまざまな文化を理解する能力を鍛えます。理論的な面では、「文化人類学特講A」「社会人類学特講B」を設け、世界各地で暮らす人びと

の営みを社会、文化、宗教の側面から考察できるようにします。一方、実践面では、「国際理解教育Ⅰ」「国際理解教育Ⅱ」「グローバル市民論」の3つの参加型の科目を開講し、ワークショップ形式で、異文化コミュニケーション能力を磨きます。また、演習形式の「国際文化フィールドワーク」を開講し、理論面と実践面をつなぎます。さらに、長期休暇中に実施する「海外短期研修」等をとおして、海外で英語力を向上させ、フィールドワークの技法を身につけます。

- ③ 3・4年次には、フィールドワークを実践し、その成果を発信するための理論と方法を学びます。理論的には、フィールドワークの成果を記したエスノグラフィーを学ぶ「エスノグラフィー各論 A」「エスノグラフィー各論 B」、異文化の出会いに着目する「多文化社会論」「観光文化論」、文化にかかわる情報の保存と発信について学ぶ「博物館資料保存論」「博物館情報・メディア論」等を配置します。実践面では、「社会調査実習」「文化人類学実習」「海外博物館研修」で、フィールドワークに挑戦します。

<「学修成果」と科目との関係>

1. 社会に生起する諸現象に関心を持ち、諸現象の中から社会的な問題を発見し、分析し、適切なアプローチ方法を構築し、実践していくことができる。
「現代社会学」「社会学入門」等
2. 社会を形成する人びとの営みを【市民】という視点で捉えるとともに、社会の本質的かつ基礎的な理論を踏まえて理解し、分析することができる。
「社会学理論」「国際理解教育Ⅱ」「ボランティア論」「臨床の社会学」「現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ」「福祉社会学Ⅰ」「地域社会学」等
3. 現代社会の成り立ちと変化・変動を、歴史的・世界的な枠組みから捉え、近代化とポスト近代化、グローバル化とローカリティ、少子化人口減少社会と超高齢化、格差と社会的孤立、価値規範の多様化と生きづらさ等の社会現象を、それぞれの現象の関連性と異質性において理解することができる。
「社会の哲学」「社会学理論」「市民の政治学」「環境社会学」「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」「メディア社会学」「エスノグラフィー各論 A」「エスノグラフィー各論 B」等
4. 【現場主義】を重視することで、実証的な方法を身につけ、データの収集とその精査、分析を通し、事実の認識力を高めることができる。
「社会調査入門」「調査研究法」「社会調査実習」「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」「データ分析論」「社会統計学」「多変量解析論」等
5. 混迷する社会に対し、21世紀を構想するビジョンを持ち、問題の解決に向けた具体的な提案をすることができる。
「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「卒業論文」等

6. 【フィールドワーク】【現場体験】【プレゼンテーション】等を通じて、他者と協働することにより、チームワークの重要性を認識することができるようになり、そのことにより、物事を進めるためのコミュニケーション能力を身につけることができる。
- 「コミュニケーション・スキル」等

[社会学専攻]

- ①社会学的想像力が身につく。

社会学的想像力によって、従来の常識や枠組みにとらわれずに、できるかぎり全体社会とのつながりのなかで、日常世界を理解できるようになる。「労働とグローバル化の社会学」「福祉社会学Ⅰ・Ⅱ」「市民の政治学」「社会階層と教育の社会学」等

- ②【新しい社会】の仕組みを構想できる力が身につく。

社会の仕組みをどのように変えていけばよいのか、構想・デザインできるようになる。

「社会構想学」「教育問題と学校の社会学」「社会の哲学」「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」等

- ③コミュニケーション能力が身につく。

諸問題の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、IT やメディアも活用できる。

「メディア社会学」「地域メディアの社会学」「教育問題と学校の社会学」「社会階層と教育の社会学」等

[コミュニティ学専攻]

- ①現場で経験・調査し、考察・実践する力を醸成できる。

「コミュニティ学演習」「コミュニティ調査法」等

- ②社会学アプローチ及び心理学的アプローチの二つのコミュニティ調査手法の学びを通して、情報の収集・分析力、企画力、プレゼンテーション力等を高めることができる。

「地域社会学」「家族社会学」「コミュニティ心理学」「人間関係の心理学」等

- ③社会貢献活動への参加を通して、具体的なコミュニティの課題を解決する実践的能力と感性を磨くことができる。

「社会調査論」「データ分析論」「社会調査実習」等

[社会福祉学専攻]

- ① 社会福祉学専攻では、フィールドワークを重視し、専攻の基礎科目である「現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ」や「ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ」等の科目を通じて理論と実践を融合する力を身につけることができます。なかでも、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」や「ソーシャルワーク実習」といった資格課程に設置された実習・演習教育を通して、福祉専門職としての力を身につけることができます。さらに、基幹科目、展開科目にある「社会保障

論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者福祉論」「障害者福祉論」「児童福祉論」等の社会福祉士国家試験受験資格科目の履修を通して、国家資格の取得を目指します。

- ② 基幹科目の「ソーシャルワーク論Ⅲ・Ⅳ」「地域福祉論Ⅰ」及び資格科目の「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」等を通して、地域という現場において、つながりあい、協働する関係を創造する力を身につけることができます。
- ③ 「地域福祉論Ⅱ」「刑事司法と福祉」「生活保護と生活支援」「医療福祉論」といった他分野、他職種との連携やチームワークが求められる分野に関する知識を深め、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」等を通して、仕事を遂行していくためのチームリーダー力やチームワークを推進していくためのフォローアップ力を身につけることができます。[国際文化専攻]

- ①文化人類学を基礎とし、人間の営みを「文化」という点から理解できる。「文化」という営みを中心に捉えつつ、新たなつながりを創出できる。

「文化人類学入門」「文化人類学方法論」「生活文化のエスノグラフィー」「モノと人のエスノグラフィー」「市民社会のエスノグラフィー」「エスノグラフィー各論 A」「エスノグラフィー各論 B」「文化人類学特講 A」「文化人類学特講 B」

- ②モノへのまなざしを身につける。モノの先にあるひとの暮らしを理解できる。

「博物館概論」「博物館と英語」「博物館教育論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館展示論」「海外博物館研修」

- ③フィールドワークを通して、現代社会の諸問題を具体的に理解し、説明できる。さまざまな文化をつなぐことができる。

「国際理解教育Ⅰ・Ⅱ」「グローバル市民論」「国際協力と英語」「海外短期研修（海外フィールドワーク）」